



環境報告書 2021



KYUSHU

トヨタ自動車九州株式会社

環境理念	環境チャレンジ/SDGs	重点取り組み	工場CO2ゼロチャレンジへの取り組み	使用量削減の取り組み	環境異常・苦情ゼロへの取り組み	CSR（環境分野）向上への取り組み
目次						
はじめに						3
あいさつ						4
環境マネジメント						5
環境理念						6
環境チャレンジ/SDGs						7
重点取り組み						8
生産環境方針の取り組み状況						9
工場CO2ゼロチャレンジへの取り組み						10
使用量削減の取り組み						16
環境異常・苦情ゼロへの取り組み						18
CSR（環境分野）向上への取り組み						19
巻末データ						26

目次	はじめに	あいさつ	環境マネジメント			生産環境方針取り組み状況			巻末データ
			環境理念	環境チャレンジ/SDGs	重点取り組み	工場CO2ゼロチャレンジへの取り組み	使用量削減の取り組み	環境異常・苦情ゼロへの取り組み	

はじめに

閲覧方法

各セクションの
トップに遷移します

 こちらのマークは
冊子外（外部接続）に
リンクしています



その他関連ページ

- トヨタ自動車九州 HP
- オールトヨタGreen Wave Project
- いきものMAP
- 使用禁止物質リスト
- グリーン調達ガイドライン
- 環境報告書 バックナンバー

発行日

2021年8月

対象期間

2020年度の環境取り組みをご紹介します。
(2020年4月1日～2021年3月30日)

あいさつ

トヨタ自動車九州(株)は、良き企業市民として自治体・地域とのコミュニケーションを密に図り、地域社会より信頼され、持続的に成長できるよう取り組みを進めています。

世界では持続可能な開発目標「SDGs」への関心が高まっており、私たちはトヨタグループの一員としてトヨタ環境チャレンジ2050を通して貢献しています。地球環境保全はSDGsの土台となる生物圏を守る活動であり、中でも地球温暖化への対応として『カーボンニュートラル』に向けた動きが世界中で加速しています。私たちもTMK Vision30に「トップクラスの環境にやさしいものづくり」を掲げ、設計・開発部門では「新車CO2」「ライフサイクルCO2」、生技・製造部門では「工場CO2」をそれぞれゼロにするべく、効率的な生産、設備、運用改善によるCO2低減と再生可能エネルギーの導入推進など社内推進体制を強化し活動を推進しています。

また『循環型社会への貢献、地域共生、CSR向上』として環境異常苦情ゼロ、環境教育、自然共生活動など身近な環境課題への取り組みを通して地域社会から信頼される企業を目指しています。

新型コロナウイルスの猛威は続っていますが、環境問題も時間や国境を越えて地球規模で取り組んでいかなければならない難しい課題です。これからも人々が安心して住み続けることができる美しい地球を後世に残すため、環境問題を正しく理解し、必要な施策を実践してまいります。

本報告書を通じ、私たちの環境への取り組みを理解していただくとともに、皆さまから率直なご意見やご指導を賜り、さらなる環境改善に努め、信頼される企業を目指してまいります。



生産環境委員会 委員長
車両本部 本部長
取締役 百瀬 英典

環境マネジメント

「社会の一員として共に歩み、 心から信頼される企業へ」



1. 地域社会より信頼される取り組み

- ・環境リスク未然防止

2. 地球環境保全への取り組み

- ・低炭素社会の構築に向けた取り組み
- ・循環型社会の構築に向けた取り組み
- ・環境保全と自然共生社会の構築



宮田工場



苅田工場



小倉工場

目次	はじめに	あいさつ	環境マネジメント			生産環境方針取り組み状況				巻末データ
			環境理念	環境チャレンジ/SDGs	重点取り組み	工場CO2ゼロチャレンジへの取り組み	使用量削減の取り組み	環境異常・苦情ゼロへの取り組み	CSR（環境分野）向上への取り組み	

環境チャレンジ/SDGs

トヨタ環境チャレンジ2050 ゼロの世界にとどまらない“プラスの世界”の実現へ

ZERO “CO2ゼロ”を成し遂げる「ゼロへのチャレンジ」

1 **CO2 0**
新車CO2ゼロチャレンジ

2 **CO2 0**
ライフサイクルCO2ゼロチャレンジ

3 **CO2 0**
工場CO2ゼロチャレンジ

トヨタ環境チャレンジ2050

PLUS “プラスの世界”を成し遂げる「プラスへのチャレンジ」

4 **水環境インパクト最小化チャレンジ**

5 **ステークホルダー社会・システム構築チャレンジ**

6 **人と自然が共生する未来づくりへのチャレンジ**

私たちは、この「トヨタ環境チャレンジ2050」の実現に向けた取り組みを通じて、SDGs*に掲げられた目標・ターゲットの達成に貢献します



世界を変えるための17の目標



* SDGs (Sustainable Development Goals) : 2015年9月の国連総会で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2016～2030年の国際目標。17の目標と169のターゲットから構成される

2050年までに成し遂げるべき具体的アクションを
6つのチャレンジとして宣言

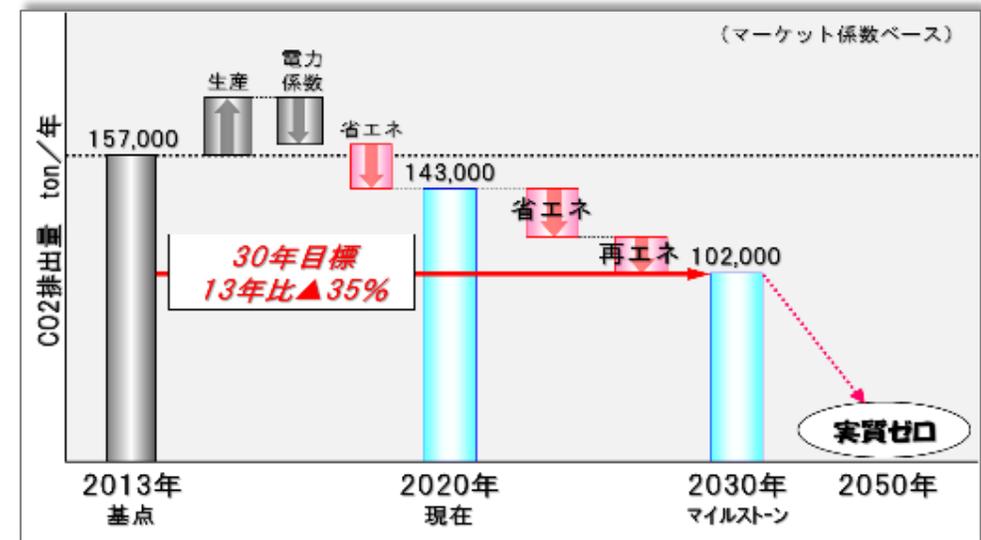
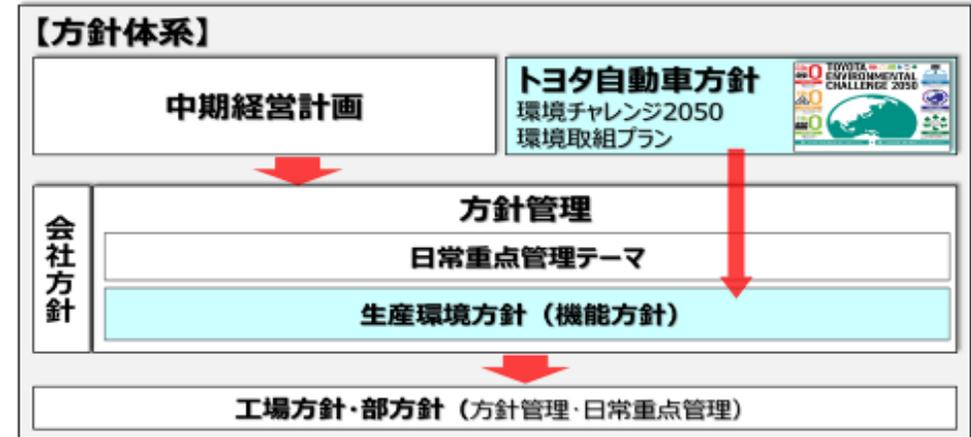
重点取り組み

◇社会情勢 - SDGs（国連持続可能な開発目標）達成に向けた取り組み

- 1)気候変動枠組み条約⇒日本の目標：2030年に2013年比▲26%
⇒COP25：2℃目標に向けた本格始動の実施準備
- 2)生物多様性COP15「ポスト2020生物多様性世界枠組」
テーマ：生態文明、地球上の全ての生命のため共通の未来づくり
マイクロプラスチックによる海洋汚染問題への関心の高まり

◇トヨタ自動車/オールトヨタ - トヨタ環境チャレンジ2050

- 1)工場CO2ゼロに向けた活動
 - ・原単位目標から総量目標へ
 - ・中長期目標 2025年▲30%、2030年▲35%（2013年比）に向けての活動加速
 - ・再エネ導入目標（2025年：15%、2030年：20%）への取り組み推進
- 2)自然共生の取り組み
 - ・グリーンウェブPJT：つなぐ活動強化、専用HPによる情報発信



生産環境方針の取り組み状況

地球環境にやさしいものづくり	循環型社会への貢献、地域共生、CSR向上
<p>工場CO2ゼロチャレンジへの取り組み</p> <p>1) 省エネ活動推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CO2企画専任者会議、部長ワーキング開催継続 ・低CO2生技予算（1Tブース）の着実な推進と革新アイテム織り込み ・日常改善/生技改善と運用改善の実行加速 ・エネルギーロス見える化による課題整理と対策立案 ・ベンチマークによる情報収集と比較における課題整理と対策立案 ・オールドヨタ横展アイテムリストの新規追加と導入加速 ・第7次環境取り組みプランに向けた方策協議 ・社内ESCO(生産CO2改善体制)の立上げ検討 ・環境月間などで新規情報の社内展開 <p>2) 再生可能エネルギー導入推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太陽光発電導入継続と設置拡大検討 ・地熱発電の事業成立性検証と推進方法の検討 ・オフサイト太陽光発電調達FSの推進 	<p>使用量削減への取り組み</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 日常改善、原価低減とリンクした各種使用量低減 2) 第7次取り組みプランに沿った目標値の検討と立案 <p>環境異常・苦情ゼロへの取り組み</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) TEAM Kyushuでの環境違反意識強化と未然防止 <ul style="list-style-type: none"> ・高リスクヒヤリの発生抑制、再発防止の徹底 ・オールドヨタ環境違反事例の横展と再発防止策の徹底 ・社内外関係者未然防止マインド向上による発生抑制 ・工場周辺地域の臭気濃度調査 <p>CSR（環境分野）向上への取り組み</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) EMSの確実な運用、内部監査実施と外部監査受審 2-1) 自然共生/生物多様性保全活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・行政、地域、トヨタグループとの協働の企画と実施 ・社内周知レベルアップによる活動活性化 2-2) 啓発/教育による社内外関係者のエコマインド向上 <ul style="list-style-type: none"> ・社内外環境意識向上のため環境啓発/教育実施 ・環境展示会などへ計画的に参画し、定着化を図る



工場CO2ゼロチャレンジへの取り組み

方針・社内体制



【方針体系】

中期経営計画

トヨタ自動車方針
トヨタ環境チャレンジ2050
環境取り組みプラン

会社方針

方針管理

日常重点管理

生産環境方針（機能方針）

工場方針
各部方針

【工場CO2ゼロチャレンジ推進体制】

生産環境委員会（年2回）

環境保全組織

CO2低減推進組織
CO2主任管理者・推進メンバー
CO2主任管理者会議（年6回）
各ショップ総括窓口（GMクラス）

- ・活動進捗確認
- ・改善アイテム共有
- ・実行課題、しくみ協議 など

製造部

革新技術導入・日常改善

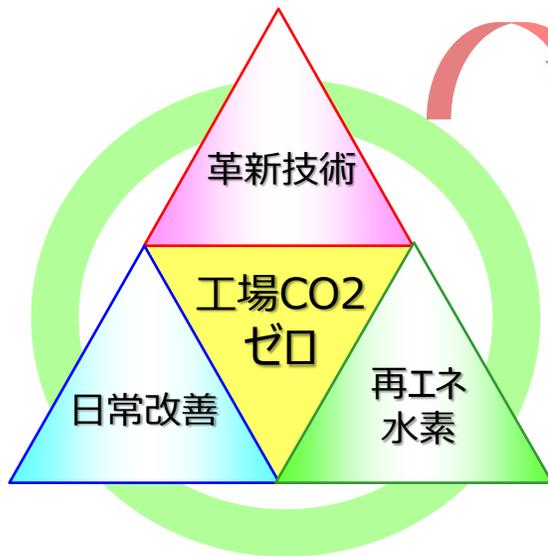


工場CO2ゼロチャレンジへの取り組み

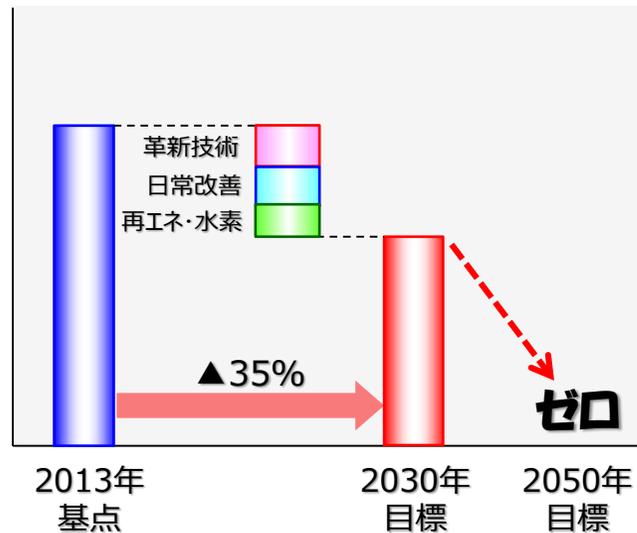
方針・社内体制

【工場CO2削減方策】

生産設備への“革新技術”導入や製造現場を中心とする“日常改善”、また、再生可能エネルギーや水素活用により、2050年工場CO2ゼロを目指す。



工場CO2目標



革新技術の導入

生産工程への革新技術導入による大幅なCO2削減推進

- ・塗装工程の革新技術導入の加速
- ・蒸気レス化、ガスレス化設備導入などの積極的なエネルギー転換

日常改善の加速

絶え間ない製造現場の省エネ改善による着実なCO2削減推進

- ・オールトヨタの省エネベストプラクティス事例の横展、やりつくり
- ・製造現場を中心とした徹底的なエアリーク、非稼働エネルギーなどのムダ削減

再エネ・水素活用

オンサイト、オフサイト全方位での再エネ導入と水素活用推進

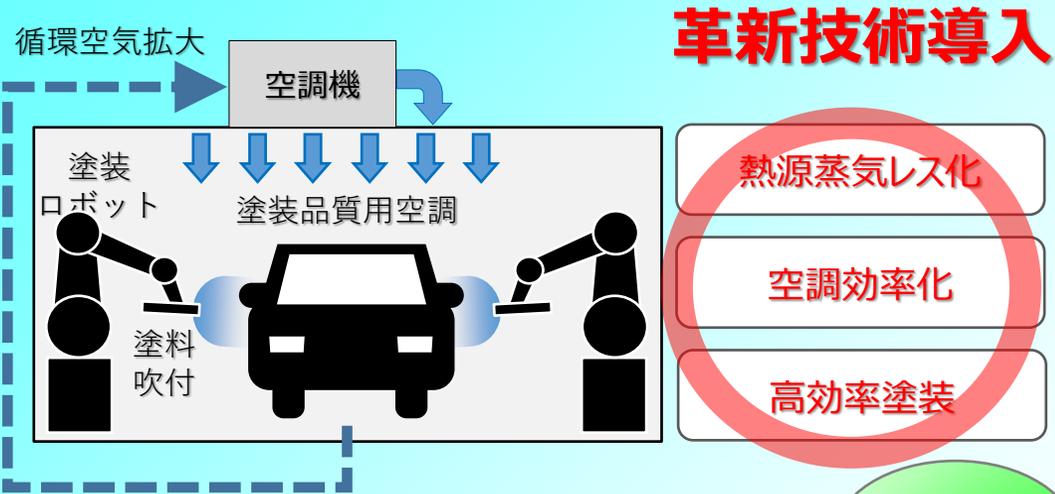
- ・オンサイト太陽光導入拡大とオフサイト再エネの検討
- ・CO2フリー水素運用継続と水素利用設備の拡大検討



工場CO2ゼロチャレンジへの取り組み

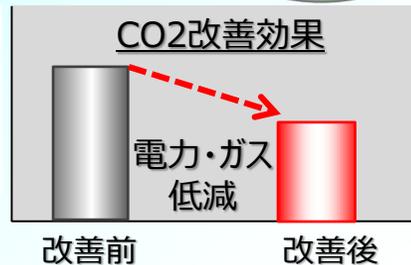
省エネ活動推進

【事例①：塗装ブース革新技術導入】



▲3,400
ton-CO2/年

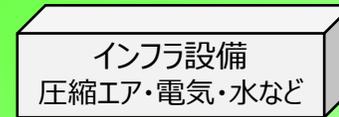
塗装ブース老朽更新にあわせ
塗装革新技術の導入により
エネルギー・CO2を大幅に削減



【事例②：ESCO活動】 Energy reduction Support & Cooperation (エネルギー低減・支援 & 協業) 協業チームで生産工程を省エネ診断、改善提案

【従来】

＜原動力・インフラ＞



それぞれで
省エネ活動

【今回活動】

＜原動力部門＞



省エネ・インフラ知識
エネルギー計測スキル

協業

＜生産工程部門＞



工程・設備知識

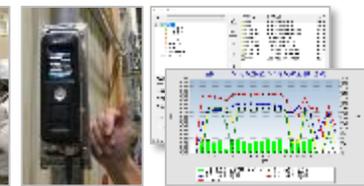
省エネ提案

【活動の流れ】

現地調査



計測・詳細調査



対策検討



▲6,300
ton-CO2/年



工場CO2ゼロチャレンジへの取り組み

省エネ活動推進

【建築事例 防災・教育センター（小倉工場）】

外観



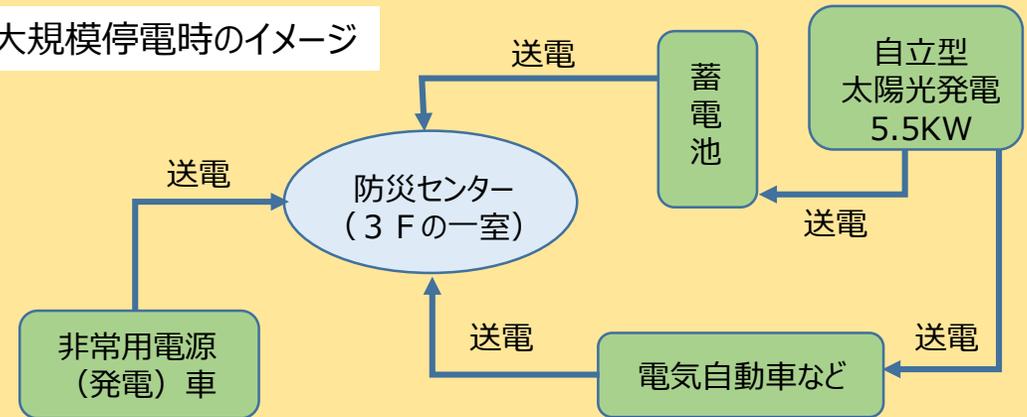
2021年3月に小倉工場内に完成した「防災・教育センター」は安全や品質、技能など各種教育を実施しています。従事者の意識や技術・技能の向上を促す場です。太陽光発電などの省エネアイテムを取り入れるとともに、災害による大規模停電などの時はそれらを活かして防災センターとしても活用できるようにさまざまな工夫をしています。

屋根、外壁、ガラスは高断熱な材料を使用。内部の機器もLED照明や高効率な空調機などを採用して一般的なオフィスビルと比較してCO2排出量を約60%低減しています。

屋上太陽光パネルと蓄電池



大規模停電時のイメージ



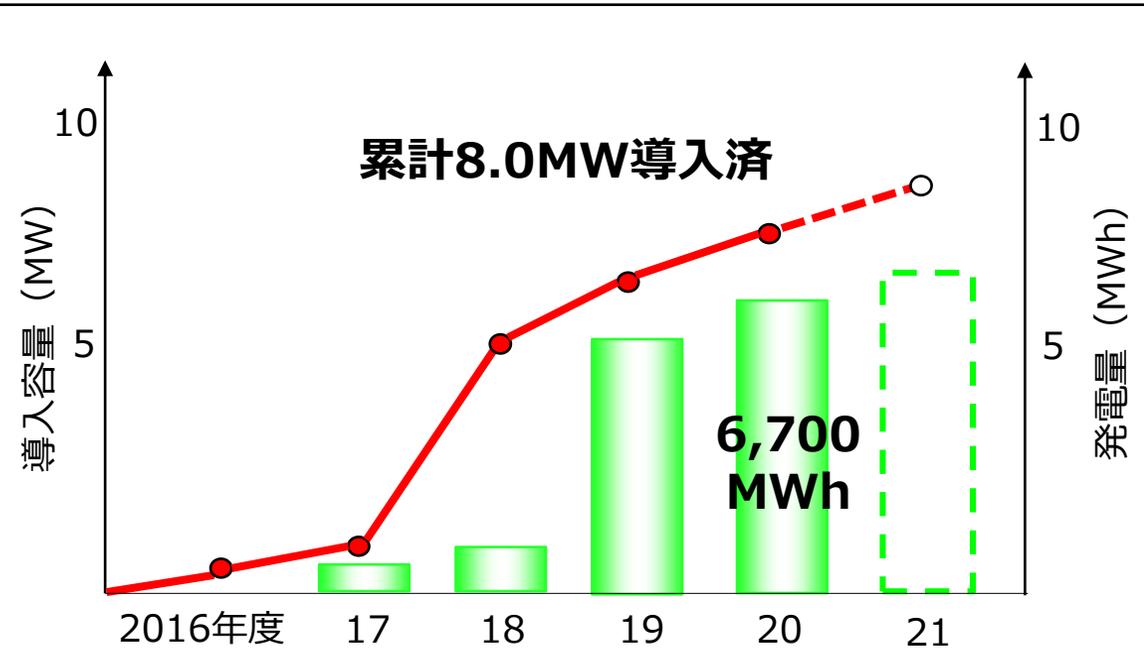
大規模停電時は太陽光発電など複数の電源で防災センターを稼働します。



工場CO2ゼロチャレンジへの取り組み

再エネ導入推進

【太陽光発電導入】

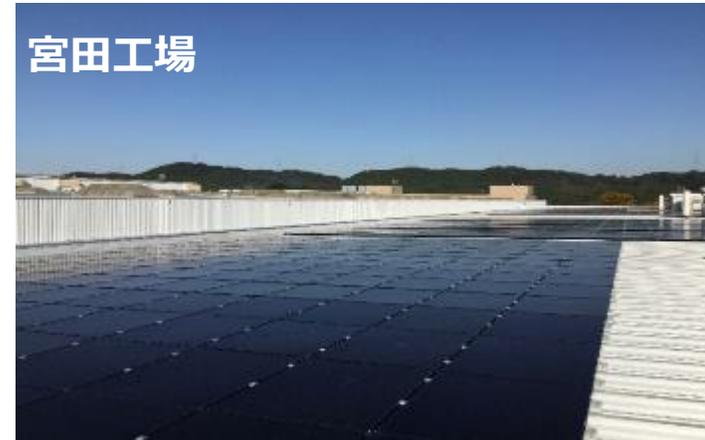


2050年、CO2ゼロを目指して、2016年度から太陽光発電導入を推進しています。現時点で、8MW（約2,100世帯分）の電力を発電しており、年間3,200ton分のCO2を削減しています。

2021年度も継続して太陽光発電導入を推進してまいります。

【20年度導入実績】

宮田工場



【設置場所】
組立工程屋上

【設置容量】
0.9MW

苅田工場



【設置場所】
パワートレーン
工程屋上

【設置容量】
0.4MW



工場CO2ゼロチャレンジへの取り組み

再エネ導入推進

【水素エネルギーマネジメントシステム（宮田工場）】

太陽光発電（再エネ）

グリーン
電力

水素製造

電気と水から水素を生成



水素

水素フォークリフト

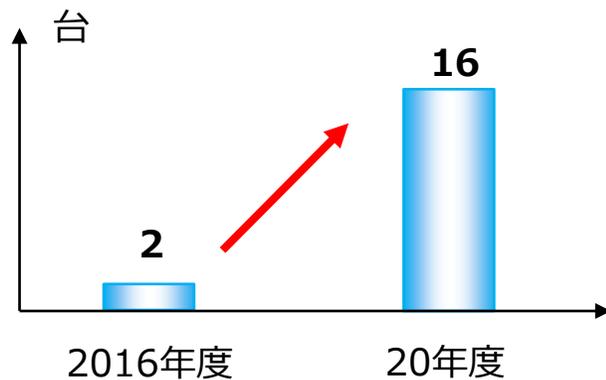
モビリティ燃料として使用



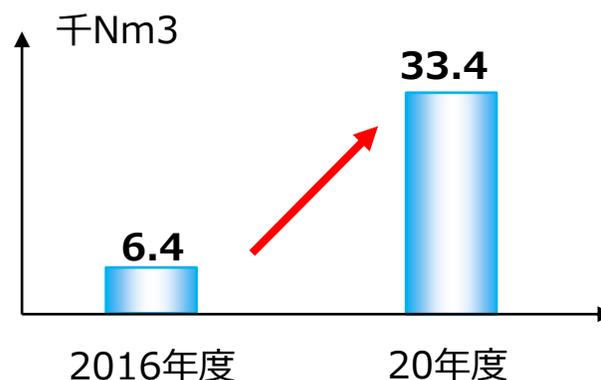
カーボンニュートラルの取り組みの一つとして2016年度に水素エネルギーマネジメントシステムを導入しています。

このシステムでは、太陽光発電のCO2フリー電力（グリーン電力）を使用し、水素を生成していますので、水素を使用して動かす水素フォークリフトからのCO2排出はありません。

水素フォークリフト導入拡大



水素製造量



システム導入以降、水素フォークリフトの導入など設備使用率の向上に取り組み、水素生成量は、当初の約5倍に拡大しています。

今後も水素エネルギーの活用方法を拡大し、カーボンニュートラルを目指してまいります。



使用量削減への取り組み

日常改善

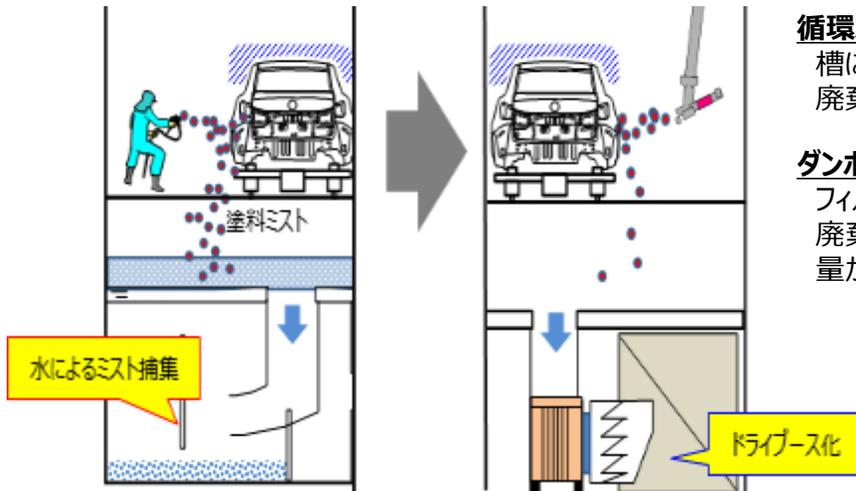


【日常改善の継続】

日常の生産活動や業務の中でさまざまな物が発生、排出されます。排出量を削減するための従業員一人ひとりが改善を考え、実行することにより環境負荷への低減へ日々取り組みを行っています。

<ボデー塗装 ドライブス化>

ボデー塗装の際に発生するミストは水を使用して捕集します。水での捕集を見直し、ダンボールフィルターで捕集するように変更して水使用量を削減しました。また、ミストを捕集したダンボールはそのまま廃棄することができるため廃棄時の歩留りが良いというメリットがあります。



<感染防止用パーテーション製作>



新型コロナウイルス感染防止対策として、生産加工で発生する端材を再利用して製作。
その他、製作物を加工する場合も廃棄物3R推進を意識しています。



使用量削減への取り組み

日常改善

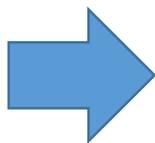
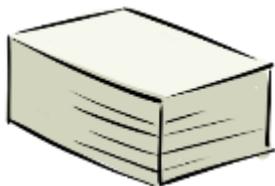
【日常改善の継続】

紙資源の削減に向けてペーパーレス活動を推進しています。資料の形式にこだわらない、業務遂行、意識・風土の変革で働き方改革やコロナ禍によるテレワーク、CO2削減、廃棄物削減など幅広い環境対応を強化しています。

〈社内で使用する紙の削減に取り組みました〉

1年間の削減枚数：331万枚

《前年比48%削減》



1年間のCO2削減量
約23 t

杉の木1656本分の
CO2吸収量
(年)

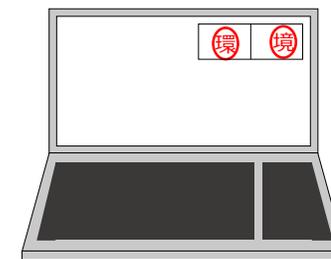
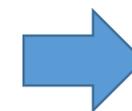
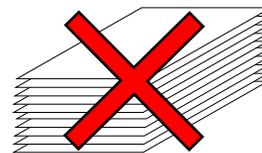
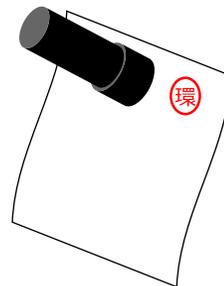


1年間の削減コスト
約630万円



ペーパーレスに取り組むことで、保管スペースの極小化や、執務スペースの拡大につながり、保管、廃棄物の低減にも寄与しました。

〈決裁書類の電子印化〉



従来の印鑑による書類決裁を電子印の仕組み構築による電子決裁に変更しました。

書面の共有も減らせることから、コロナウイルス感染症対策にも有効と考えています。

環境異常・苦情ゼロへの取り組み

環境違反意識強化と未然防止



【異常処置訓練】



工場からの油や排出物を社外へ漏洩、流出させないために、日常点検をしっかりと実施しています。また、緊急事態にもすぐに対応できるように、社内の各部署で異常処置訓練を実施しています。訓練の中で指摘や改善箇所を見つけてスパイラルアップし、情報を共有して意識向上に取り組んでいます。

【物流連絡会/作業責任者更新教育】

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、仕入先様への環境啓発も感染対策を行ったうえで実施しています。物流業者に向けた環境教育はオンライン会議で開催しました。オンライン会議が難しい教育では、パーティションを設置したうえで十分な距離を保ち、安心安全な会議になるよう取り組みました。



↑パーティションによる感染対策

取り組み状況

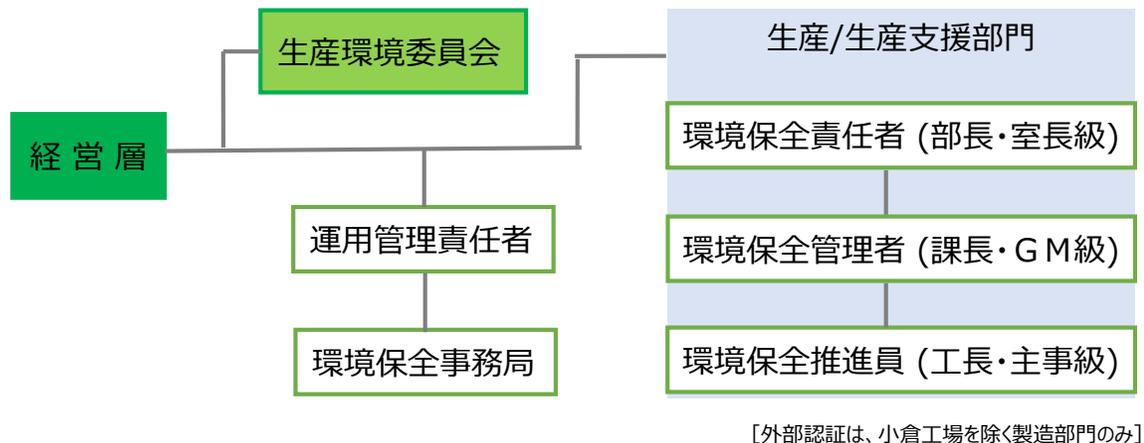
CSR（環境分野）向上への取り組み

ISO14001の認証継続

【EMSの確実な運用、内部監査実施と外部監査受審】

■トヨタ九州は、役員と部長級で構成する生産環境委員会を設置し、環境目標の審議・決定や環境マネジメントシステムの運用状況を確認しています。

【環境保全組織体制】



■ ISO14001の環境マネジメントシステム運営

1998年4月にISO14001を認証取得してから環境マネジメントシステムのツールを活用して環境保全活動の継続的な改善を自主的かつ積極的に取り組んでいます。

2018年2月には「ISO14001：2015版」の認証登録を完了し、事業と環境との課題を解決するべく、両者の統合化した活動を進めて、目まぐるしく変化する社会に対応した戦略的な環境経営をしていきます。また、生物多様性や自然共生の取り組みなどの地球環境保全に貢献してまいります。

■ 環境内部監査

ISO14001規格の要求事項に対してトヨタ九州の環境マネジメントシステムが有効に運用されているかを確認するため、定期的な環境内部監査を実施しています。監査員の養成は環境マネジメントマニュアルなどを用いて、外部機関の講師による実践的な教育訓練を実施しています。



内部監査員の養成研修



CSR（環境分野）向上への取り組み

人と自然が共生する未来づくりへのチャレンジ

【取り組みの基本的な考え方】

生物多様性の重要性を認識し、トヨタ基本理念に基づき、住みよい地球・豊かな社会の実現と、その持続的な発展を目指し、自動車・新規事業・社会課題への貢献などにおいて、生物多様性に取り組みます。

1. 自然共生/生物多様性の活動

All Toyota Green Wave Project

地域と共に里山整備・自然回復の推進

自然と共生する工場づくり

2. 未来づくりの活動

ESD Project

自然体験などを通じた子ども達への学習支援



【生物多様性に関する理解度向上】

社員や地域の皆様方への、自然共生に関する認知度向上・知識や指導能力を有する人材育成にも取り組んでいます。自然共生活動への参加、親子自然体験観察会などを通じた活動を実施しています。また、「ビオトープ管理士・自然観察指導員」などの資格取得を積極的に支援しています。会社周辺の野生の生きものを調査・MAP化し、社内外の皆様方への関心事、啓発に役立つ取り組みも行っています。

※ESD（Education for Sustainable Development）：持続可能な開発のための教育



CSR（環境分野）向上への取り組み

【自然と共生する工場づくり】

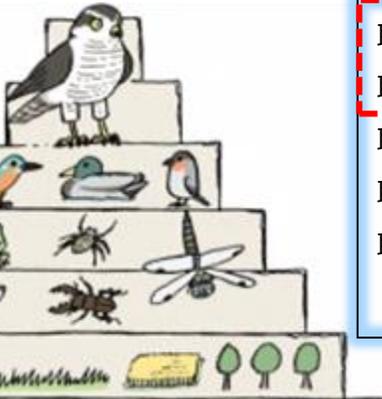
トヨタ九州では『人と自然が共生する未来づくり』の一環で『自然と共生する工場づくり』を行っています。今回はその取り組みについてご紹介いたします。



【自然と共生する工場とは？】

《生態系ピラミッド》

《生きもの指標種》
食物連鎖の観点より
地域特有のシンボル種
↓
生息環境の維持改善



- 取り組みⅠ 地域に応じた指標種の選定
- 取り組みⅡ 指標種生息環境の維持改善
- 取り組みⅢ 指標種の継続的な効果把握
- 取り組みⅣ 従業員自ら活動し人財の育成
- 取り組みⅤ 地域の皆様と共に協働し、コミュニケーション促進

自然共生活動



【宮田工場周辺の「生きものMAP」制作】

筑豊の自然を楽しむ会様ご協力のもと、2019年秋から1年間かけて、宮田工場周辺の生きものを調査し、四季ごとのMAPを作成しました。「春初夏」「夏」「秋冬」3種類のMAPを会社ホームページで公開し、87種類の生きものたちを紹介しています。



↑生きものMAP（春初夏、夏、秋冬）

“植物やむし達を守ることにより生態系全体を保護”

写真：筑豊の自然を楽しむ会



《代表的な鳥・虫：87種類を確認》



【ミサゴ】
魚を専門に捕る
ホバリングを実施
魚めがけて！！



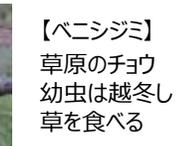
【ツグミ】
シベリアから大
群で来る冬鳥
雑食（昆虫・
果実）を食べる



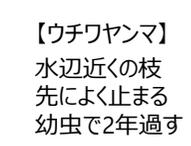
【オソドリ】
オスはカモの中
で最も目立つ
主食はどんぐり



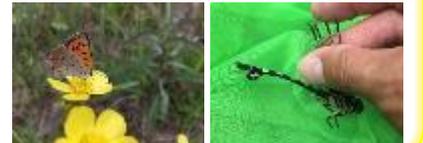
【アオジ】
低木の生えた
草地にすみ草
の種子を食べる



【ベニシジミ】
草原のチョウ
幼虫は越冬し
草を食べる



【ウチワヤンマ】
水辺近くの枝
先によく止まる
幼虫で2年過す





CSR（環境分野）向上への取り組み

自然共生活動/生物多様性の取り組み



【地域と共に自然回復への取り組み】

(地域と共に里山整備・自然回復)

イベント情報	活動内容	協働先
アダプトプログラム	さつき松原の整備	宗像市

- 1) 日程 2020年12月13日 場所 宗像市 海岸線
- 2) 参加者 135人 (子ども25人、従業員110人、スタッフ6人)



【地域・グループ一体活動】

(里山整備：特定外来生物の駆除)

イベント情報	活動内容	協働先
オオキンケイギク	計画的駆除	宮若市

- 1) 時期 2020年4月末～6月末 場所 宮田工場周辺
- 2) 参加者 延べ56人、実施回数7回、駆除数120袋





CSR（環境分野）向上への取り組み

未来づくりへの取り組み



【親子自然体験学習】

(地域と共に里山整備・自然回復)

イベント情報	活動内容	協働先
里山いきもの探し	いきものBOXづくり	ちくぜんらく様

- 1) 日程 2020年10月4日 場所 サビレッジ茜
- 2) 参加者 親子10組 (子ども17人、大人15人、講師6人)



【親子リサイクル体験学習】

(使用済みローソクの再生を通じて3Rを学ぶ)

イベント情報	活動内容	協働先
クリスマスキャンドル	植物活用	黒丸むらおこしの会様

- 1) 日程 2020年12月6日 場所 旧若宮西小学校
- 2) 参加者 親子9組 (子ども17人、大人17人、講師9人)



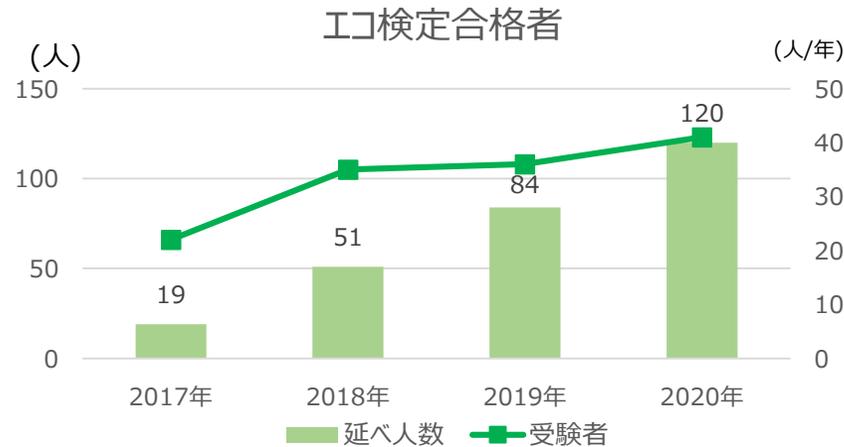
環境経営

CSR（環境分野）向上への取り組み

啓発/教育による従業員エコマインド向上

【eco検定※の取得推進】

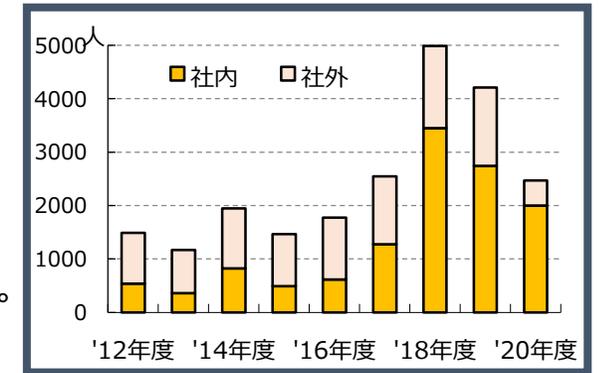
トヨタ環境チャレンジ2050の達成に向けて従業員の環境への関心・理解を深め、アクションにつなげることを目的として「環境人財づくり」を推進しています。管理者から部内メンバーに情報発信して社内全体の環境意識を底上げできるように、社内環境活動を推進する環境保全組織構成員(約160人)が順にエコ検定を受験しています。2020年までに120人が合格しました。



※eco検定とは
東京商工会議所が主催している環境に関する検定試験
SDGsを理解するための環境基本知識や環境問題を幅広く習得できる

【環境教育の活動】

環境の取り組みに関する各種教育を社内外で実施しています。社内では階層別教育、構内で作業する社外の方へは周辺環境や構内での注意事項などについて伝達教育を実施しています。今年度は新型コロナウイルス感染予防対策として対面教育を中止し、e-Learningを活用して動画教育を推進しました。また、構内へ入構する作業員教育も来場研修から書面伝達に変更して実施するなど、環境異常を起こさない取り組みを継続しました。



【環境関連資格】

公害防止管理者、エネルギー管理士、廃棄物技術管理者など環境関連の資格を常時取得推進し、環境意識の向上、法令順守の徹底につなげています。

環境経営

CSR（環境分野）向上への取り組み

環境月間の取り組み

【地球環境月間】

毎年6月を『地球環境月間』と位置づけ、さまざまな行事を実施しています。今年も、感染拡大防止の観点より、毎年実施している講演会などの大規模なイベントは控え、環境意識向上のための環境月間としました。

行事	内容
TOPメッセージ	生産環境委員会委員長メッセージ配布
啓発メッセージ	PC起動時に啓発メッセージを起動
①環境ヒヤリの防止活動	発生状況別にまとめた資料を展開
②環境取り組みファイル配布	テーマ：海洋プラスチックごみ問題周知に作成
③Eco newsの展開	自然共生やプラスチック問題、CO2低減をトピックスに環境情報を展開

①環境ヒヤリ事例ポイント集の展開

環境ヒヤリ*発生抑制を目的に、発生状況別にまとめたポイント資料を展開しました。

（雨天時、作業時、車両、リスクの事前検討など）

※環境違反や苦情につながる可能性がある軽微な事例

《例：雨天時》

- ・降雨時のリスクアセス
- ・工事後の外観確認、ふき取り
- ・工事前後の養生

チェック
原則、液体が入った容器の屋外放置は禁止（やむを得ない場合は養生等）



②環境取り組み紙製ファイルの配布

海洋プラスチックごみ問題の周知を目的に、従来のプラスチック素材から紙製（FSC認証*素材）のファイルを配布しました。職場での回覧、部内教育ツールとして活用、従業員全体の啓発につながっています。また、各種イベントでも配布しました。レジ袋有料の義務化を受け、社内売店でも20年7月よりレジ袋配布を廃止しています。

※ 適切な森林管理の製品を目に見える形で消費者に届け、経済的利益を生産者に還元する仕組みの認証



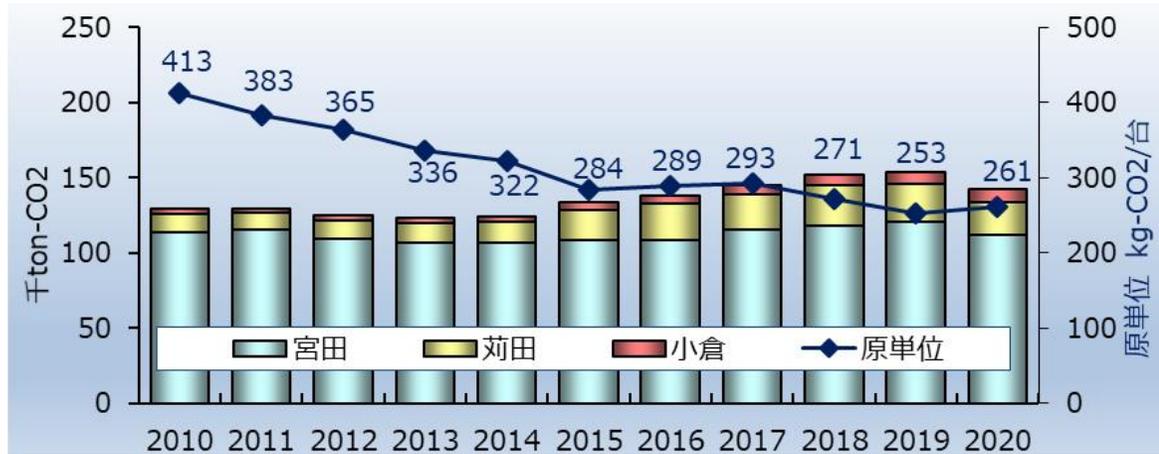
③Eco newsの発行

2020年より、従業員の環境への関心と理解を深め、アクションにつなげることを目的に、環境に関する世界・国内の動向やトヨタ九州の取り組みを紹介する『Eco news』を展開しました。トヨタ環境チャレンジ2050とSDGsのつながりと自然共生、CO2低減、海洋プラスチックごみ問題などのトピックスに紹介しました。



巻末データ

〔 CO2排出量の推移 〕

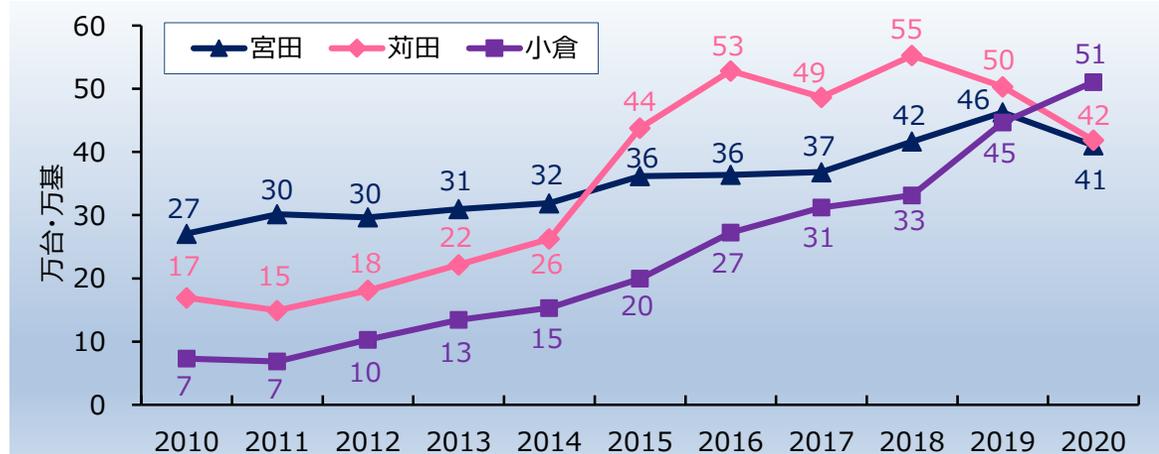


〔 廃棄物 (※) 排出量の推移 〕

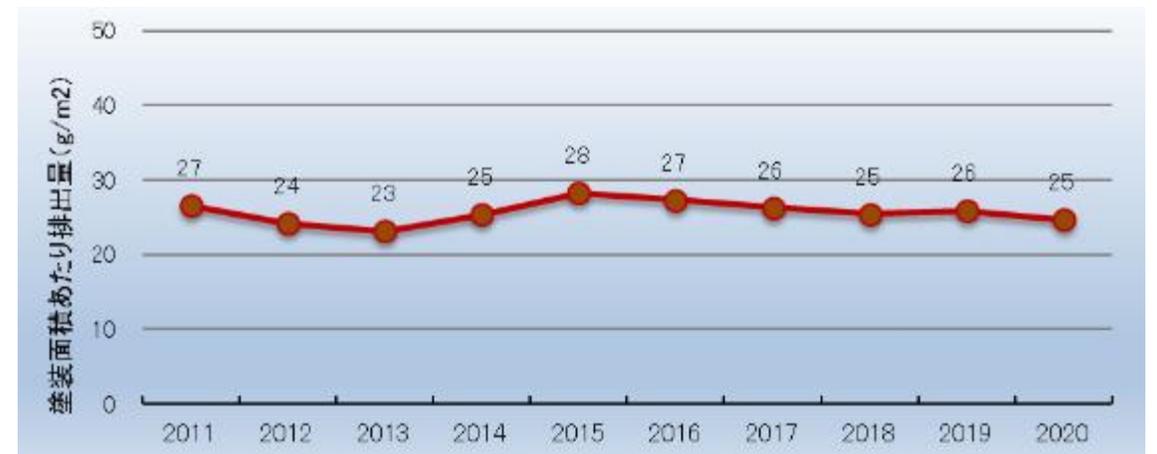
(※) 全て逆有償リサイクル処理



〔 車両・エンジン・ハイブリッド部品生産数の推移 〕



〔 VOC排出量の推移 〕



このページに関するアンケート

今後の環境報告書づくりに向けにご協力ください。

<https://forms.office.com/r/QYp2ke5yUy>

